

# 謎解きクロス

# 3

◆ストーリーを読み、以下のクロスワードパズルを埋めてください。

料理屋の窓から、青い空と海、風にゆれる白い漁船群が見える。

前日から、オレは「旅行ライター」の仕事で〇〇〇〇に来ていた。その料理屋は、別に最後の取材先というわけではない。ただ「ズボラ(縦4)」なオレは、「昼(縦14)」間から一人で酒を飲んでた。

刺身定食の小鉢に鮫鱈の「肝(横7)」。お造りは、地元でとれた「貝(縦2)」、「鰯(縦13)」、「烏賊(縦15)」である。それらの写真を撮り、板さんの解説を聞いて仕事はひと段落。昼飯だけで終わりにするわけにはいかない。まずビールを頼み、お銚子も一本つけてもらった。

ほろ酔いになったオレは、街並みの写真を撮りながら、「紅葉(縦8)」の降る路地をふらついていた。ちょっとセンチになって、人生を振り返ってみる。

子どものころ、オレは職人になりたかった。たとえば「宮大工(横10)」。テレビで伝統を守る職人の物語をみて憧れるようになった。宮大工の棟梁は、自分の見解を「固持(横11)」して、譲らなかつた。その伝統に裏付けられた頑固さが、カッコよかった。

かつて、テレビの「クイズ(横3)」番組の予選に出たこともある。

漢字の読み方を答えろという問題で、「薔薇(横9)」「翡翠(横14)」「海豚(横1)」という単語が出た。もちろん、すべてクリア。オレは旅行ライターにもなりたかつたくらいだから、漢字は知っている。ただ、オレは算数が苦手だった。テレビでも、司会者からいきなり「九九(縦3)」の掛け算を出題され、うっかり間違えてしまった。

その後、テレビ局に来ていた人から「モデル(横16)」クラブに誘われたが、入会金が必要とわかってやめた。タレントになるには、イケメン度が足りなかつたな。

25年も勤めた会社にリストラされたオレは、伝手をたどって、何とか「旅行ライター」の仕事に就いた。子どものころから、大好きな旅をしながら食べていく方法はないものかと「意識(縦1)」していたので、まさに「ドリーム・カム・トゥルー」。夢がかなつたのである。

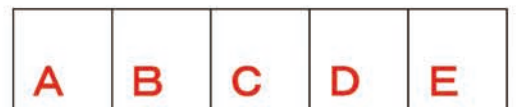
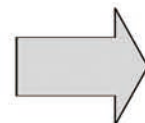
もっとも、会社で頑張つて高い「地位(横12)」につこうとは考えていながつたが、経済的にはとても苦しい。サラリーマンと違って、仕事があれば給料が入るが、なければ一円にもならない。人生の「博打(縦9)」に出たともいえる。そんなわけで「衣(縦11)」替えの季節はとつくに過ぎたのに、新しいコートを買うことができず、ダサイ「衣服(横5)」を着ている。

伊豆急行の終着駅である〇〇〇〇の街。オレは何度も立ち止まって「案山子(横17)」のように突っ立っていた。別に、目が覚めるような美女と出逢つたわけではない。街並みが、あまりにも美しかった。しかもその街には幕末を彩る歴史がある。

携帯電話が鳴つた。妻からメールが入っている。

「夕飯は食べる？」と聞かれたので、オレは「アジの干物を買つて帰る」と返した。最近、これが唯一のコミュニケーション。

彼女は今、趣味の「フラダンス(縦6)」のレッスン中とのことで、花飾りをして笑っている写真が添えてあつた。オレも、たまには仕事の写真でも添付するか、なんて考えている。



【答え】

◆漢字で書くと

--	--	--	--

1		2		3		4
A						B
		5		6		
7	8				9	
		10				
			E			
11					12	13
		14		15		
16				17		
D						C